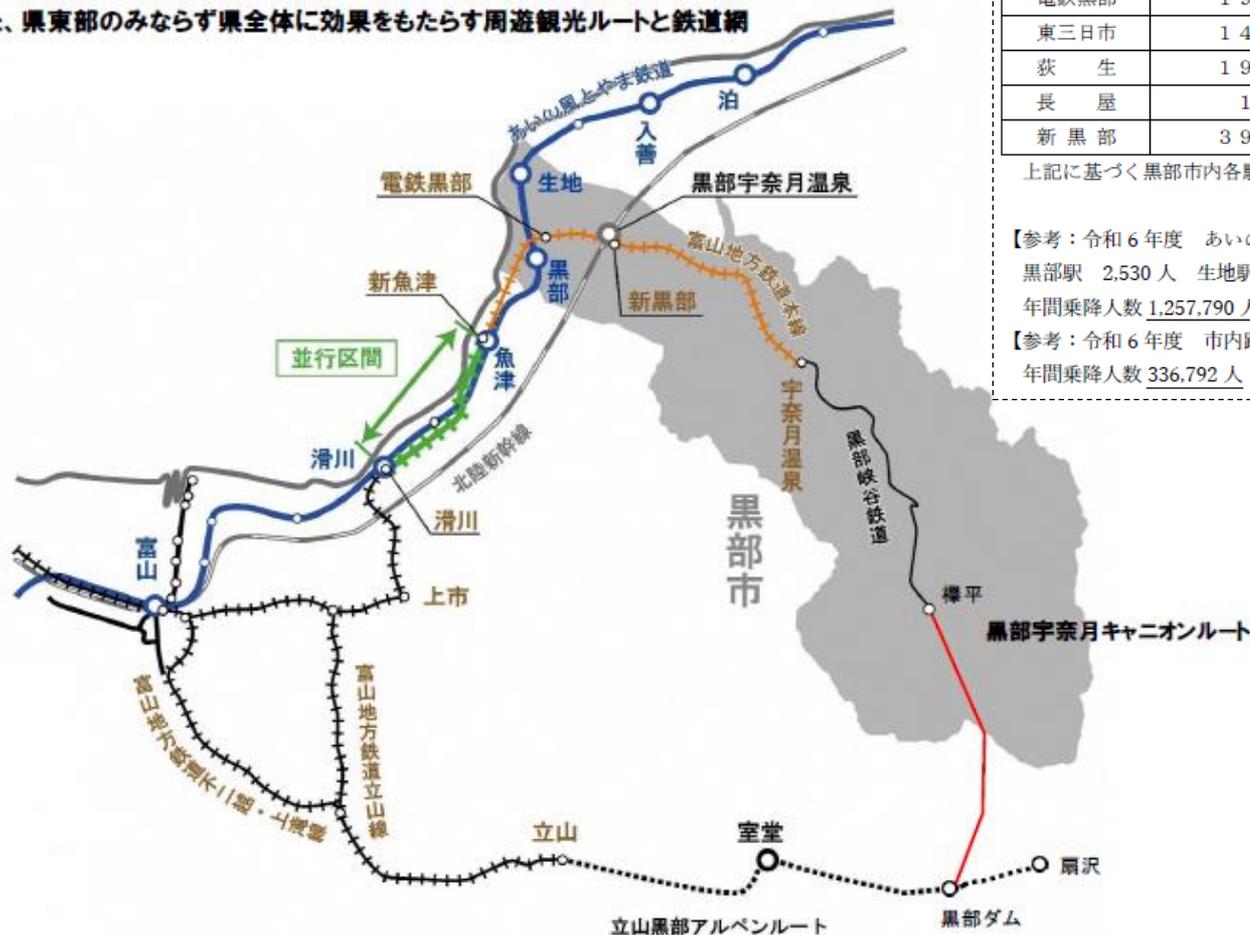


# 富山地方鉄道本線

通勤・通学・日常の買物など生活に密着

また、県東部のみならず県全体に効果をもたらす周遊観光ルートと鉄道網



富山地方鉄道本線 黒部市内各駅1日平均利用者数 (R6年度)

駅名	利用者数	駅名	利用者数	駅名	利用者数
電鉄石田	117	舌山	48	下立	23
電鉄黒部	196	若栗	33	愛本	15
東三日市	148	栃屋	109	内山	25
荻生	197	浦山	116	音沢	13
長屋	11	下立口	44	宇奈月温泉	578
新黒部	391			16駅合計	2,064

上記に基づく黒部市内各駅年間乗降人数  $2,064人 \times 365日$   
 $= 753,360人$

【参考：令和6年度 あいの風とやま鉄道黒部市内乗降人数（1日当たり）】

黒部駅 2,530人 生地駅 916人 計 3,446人  
 年間乗降人数 1,257,790人

【参考：令和6年度 市内路線バス（6路線）+愛本コミュニティバス年間乗降人数】

年間乗降人数 336,792人

# 富山地方鉄道本線 協議経過

開催日及び会議名	内 容
【令和6年9月】 鉄道線支援に向けた沿線 首長会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地鉄の現状及び課題と将来展望について地鉄から説明</li> <li>・鉄道線の支援のあり方に向けた方向性と課題等について、県及び沿線自治体で意見交換</li> </ul>
令和6年10月	富山地方鉄道(株)が黒部市を訪れ、行政負担なしでは上市以東については、運行を維持できないことを個別に伝達
【令和6年11月】 第1回 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山地方鉄道(株)は、経営難を理由に上市以東については、行政負担なしでは、運行継続が難しいと表明。</li> <li>・富山地方鉄道鉄道線を将来にわたり持続可能な路線とし、維持・活性化の方策等について検討するために検討会(富山市、滑川市、魚津市、黒部市、立山町、上市町、舟橋村、県)を設立。</li> </ul>
【令和7年2月】 第2回 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の協力の方向性として、富山地方鉄道(株)からの支援要請額は燃料費・物価高騰分2億円と便数維持のための3億円の合計5億円。それに対し燃料高騰分に当たる2億円の支援を県・沿線市町村が合意。(結果、地鉄は、運行経費を抑えるため、令和7年4月から減便。)</li> <li>・黒部市は、「そもそも鉄道線を維持するために必要であれば、将来のあり方を検討する時間を設けるために、当面、支援をしていく必要がある」と発言するが、議論が深まらず、他市町村の賛同なし。</li> <li>・富山地方鉄道鉄道線は、路線(区間)ごとに関わる市町村や抱えている施設(並行区間・高架・長大橋等)などの課題が異なることから分科会(本線分科会:滑川市、魚津市、黒部市、上市町、県)を組織し、スピード感をもって中長期的な運行のあり方(令和8年度以降の対応)を検討することを決定。(黒部市は、沿線である富山市、立山町、舟橋村もメンバーに入るべきと伝えるが上記のまま)</li> </ul>
【令和7年7月】 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会 第1回本線分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地鉄線への自治体負担の適否を判断するために、地域として必要な地鉄線のあり方(存廃を含む)について調査することを決定。(調査の事務局は黒部市)</li> <li>・沿線自治体の協力について富山地方鉄道(株)と協議するため、スピード感を持って調査を実施し、中間報告を示すことを決定。</li> <li>・富山地方鉄道(株)は、中間報告を待つとの姿勢を示し、なるべく早い判断を求める。 →一方で報道では行政負担がなければ一部区間の廃線を表明</li> </ul>
【令和7年11月】 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会 第2回本線分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山地方鉄道本線のあり方調査の中間報告(運行状況、必要性、運行形態の比較、利用者を増やす取組案等)</li> <li>・運行形態は、鉄道ネットワーク維持と利用者の利便性の観点から、①現行路線維持、②あいの風とやま鉄道との並行区間の営業運行を廃止(車両回送に使用)、③同区間を廃止撤去(車両回送も行わない)の3パターンに絞り込んで今後の検討を進める。</li> <li>・本線のあり方について、丁寧に論議する時間を確保するため、令和8年度について、本線を含めた全線を一体で支援する方向で、12月のあり方検討会で、対応を協議することを確認。</li> </ul>
【令和7年12月】 第4回 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会 ※第3回については、あり方検討会の規約改正について書面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分科会(本線・立山線・不二越上滝線)からの検討状況報告 本線については、今後の方針として、引き続き調査を行い、絞り込んだ運行形態の概算経費、利用者を増やす取組に係る概算費用を明らかにし、運行形態ごとに課題等を取りまとめると報告</li> <li>・富山地方鉄道鉄道線に係る令和8年度の対応については、運行主体である富山地方鉄道の一定の負担を前提に、県沿線自治体(7市町村)で鉄道ネットワークを維持するため、収支差の一部を公的負担するスキーム(県1/3、7市町村1/3、地鉄1/3)とする。</li> </ul>